市長	…………	比田勝尚喜君
副市長	…………	俵　　輝孝君
副市長	…………	一宮　　努君
教育長	…………	中島　清志君
総務部長	…………	木寺　裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	…………	犬束　幸吉君
しまづくり推進部長	…………	三原　立也君
観光交流商工部長	…………	阿比留忠明君
市民生活部長	…………	村井　英哉君
福祉部長	…………	田中　光幸君
保健部長	…………	桐谷　和孝君
農林水産部長	…………	平川　純也君
建設部長	…………	内山　　歩君
水道局長	…………	舎利倉政司君
教育部長	…………	扇　　博祝君
中対馬振興部長	…………	原田　武茂君
上対馬振興部長	…………	原田　勝彦君
消防長	…………	井　　　浩君
会計管理者	…………	勝見　一成君
監査委員事務局長	…………	志賀　慶二君
農業委員会事務局長	…………	栗屋　孝弘君

午前10時00分開議

○議長（初村　久藏君）　おはようございます。

報告します。脇本啓喜君、大浦孝司君及び小田昭人君から欠席の届けがあっております。

ただいまから議事日程第５号により、本日の会議を開きます。

日程第１．市政一般質問

○議長（初村　久藏君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、３人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　１７番の作元でございます。皆さん、おはようございます。

私事で大変恐縮でございますが、２日間、博多で台風並みの低気圧で足止めを食らいました。やっと今朝、帰ってきまして、一般質問も交代をさせていただきまして、今日の１番目にさせてもらうことになりましたのでよろしくお願いしたいと思います。

それでは、通告に従いまして一般質問を行いたいと思います。

まず、令和７年度以降の対馬の自然資源を活用した観光地あるいは資源の利用方法について、今後、市長にお尋ねしていきたいと思います。

整備を含めた有効活用について、今の観光地の状況を見てみますと、まだまだ整備が行き届いていないところが多々見受けられます。それと、観光案内板の設置が、もう薄れて見えないところもあるし、観光に来られた方がどこに行ったらどうなっているのかというような、そういった案内板の設置も、これから必要になってくるのではないかなというふうに思っております。

幅広い問題提起でございますけれども、上地区から下地区まで今、ちょっと見てみますと、豊崎砲台が今、道路整備中でございました。私もちょっと行ってきましたけれども、3月３１日と工期が書いてありましたけれども、あそこも有望な観光地でございますので、ぜひ工事が終わりましたら、もう１回、しっかりと見に行って、していただきたいなというふうに思います。

それから、仁田の目保呂ダム馬事公園。ここも、仁田から目保呂ダム馬事公園に行くところの案内板、これがぼやけて何が書いてあるか分かりません。車からもぴしゃっと見えるように、できれば、あそうベイパークのツツジが描いてあるような、ああいった案内板をあそこに設置されたらどうかなというふうに思います。

それから、中対馬振興部の関係で、和多都美神社と烏帽子岳、それから神話の里自然公園、この一体化について、１回、質問もいたしておりましたけれども、どうも協働隊が７月いっぱいでやめられて、その後の進行がまだうまく行ってないという話を部長からも聞いております。ぜひ、ここは中対馬にとっても大きな観光地でありますし、一大活用、利用を進めていく上でも協働隊をしっかり募集をして、市と一緒になって取り組んでいただきたいなというところでございます。

それからずっと下地区に行きますと、あそうベイパーク。これも今、整備中でございますけれども、これも整備が終わりましたら、ぜひ観光に大きな活用ができる、すばらしい観光地だろうと思っておりますし、市民が一緒になって遊べる場所になるのではないかなというふうな思いがしておりますので、ぜひここの整備もちょっとお尋ねをしておきたいというふうに思います。

それから、あとずっと下地区に行きますと、観光地いっぱいあるんですけど、小茂田浜神社あるいは豆酘崎灯台、ここら辺も立派な観光地です。小茂田浜神社にも昨年、行きましたけれども、武者行列をやっておられました。多くの人たちが来て、観光資源としてはすばらしい武者行列ではないかなと思っております。副市長の地元ですから、ぜひ地域ともっと相談をされて、大きな下地区のお祭りの一部として活用していただきたいなというふうに思っております。

それから、２点目になりますけれども、今度は資源の活用、資源の保護という点から質問をしてみたいと思います。

今、対馬の漁業は大きな不振を迎えております。それこそ三千五、六百隻、船はおりますけれども、特にイカ漁が不振で、各漁協ごとに前年比約２億円から５億円、水揚げが落ち込んできております。

これは、本当に漁業者にとっては大変な不漁の時期を迎えているなというふうに私も思っておりますが、その原因の一つが、やはり巻き網と底引き網と、こういったものが対馬の資源を枯渇させている大きな原因じゃないかなというふうに思っております。

特に、また後でファイルを出してみますけれども、対馬には大型巻き網はない。大型底引き網もない。小型底引き網もない。みんな他県から、そして長崎県では北松地域から対馬近海にやってきて漁獲をして帰る。こういったところが、対馬には昔から底引き網とか巻き網とかはないんです。上にも中型まき網とかが２つあるだけですけれども、あとはみんな、よその船から持っていかれているんです。

この底引き網にしても、後でファイルを出しますけれども、本当に小さなアカムツを２００箱、３００箱取っているんです。今、タブレットに入っていると思いますけれども、後の質問の中で、市長にもお尋ねしていきたいと思いますけれども、非常にたくさんの数を取っています。

これは何でそうなったかというと、令和５年の８月１７日だったと思うんですけれども、小茂田沖で島根県の底引き網漁船が巻き過ぎて、クレーンが折れて、アカムツをばら撒いた事件がありました。これがネットに流れて、小さな底引き網までこの地域に来るようになってしまった。これも、やられたことによるこちらの怒りもあって出したんでしょうけれども、それを見て、今度は自分たちの有効利用をするために利用した。

それが今、ネットに載せています２００箱、３００箱、これ何日も取る、１匹が小さなたばこぐらいのアカムツなんです。これが１箱５００円ぐらいしかしないやつを、佐世保に持って帰る、北松に持って帰る、そして販売している。こういったことが続くと、大型もそうですけれども、対馬近海の資源は絶対枯れてきます。

これは７マイルより外ですけれども、やはりこういったことがないように、これは市長もなかなか難しい問題だと思いますけど、許可の関係で水産庁も入ってきます。県も入ってきます。こういったところをしっかり検証してみてください。どうすればよくなるのか、誰に言えばいいのか、こういったところまで、ぜひ検証していただきたいなというふうに思っております。また後で再質問でします。

３点目については、ジェットフォイルの件なんですけど、ジェットフォイルが九州郵船株式会社、壱岐市、対馬市、県、国、合わせてできるようになったよという、前触れを出しました。で

きるようになったよと。いつできるとは言ってませんけどね。

　だから、我々も新政会で川崎重工業株式会社に行って、話をいろいろ聞いてきましたけれども、契約をしてからじゃないと建造にはかかれませんということで、国交省、鉄道運輸機構も含めて、いつ契約ができるのか。契約をしないと建造にかかれない。川崎重工業株式会社の話では、建造にかかってから約３年半かかるという。

　だから、ここを早くせっついて、契約までこぎつけて、建造に取りかかるようにしないと、だんだん先延ばしにされていきます。ジェットフォイルも、よく今、欠航が続いております。こういったところも、しっかりと市長、横と縦の連絡をしっかり取って、早く契約ができるようにしてほしいというふうに思っております。

　川崎重工業株式会社の話を我々新政会で聞きますと、技術的にも東海汽船株式会社のジェットフォイルを造ったときに、古い人も新しい人も一緒になって造り上げて、今後は川崎重工業株式会社で、国内でジェットフォイルが造れるようになりましたという話を聞いてきておりますから、もう新しい人がその技術を伝承しているみたいで、いいことだなというふうに思っています。

　日本全国で３７隻ぐらいのジェットフォイルがおりますので、次々に、金額は高いけど、その第２号船として、東海汽船株式会社に次ぐ２号として、壱岐対馬のジェットフォイル・ヴィーナスを早く契約できるように進めていただきたいというふうに思っております。

　以上３点、市長にお尋ねをしてみたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。作元議員の質問にお答えいたします。

　初めに、対馬の自然保護と有効活用についてでございます。まず、対馬の代表的な観光の魅力として、多くの方が歴史・食・自然の３つを連想されると思っております。

　中でも、自然は特に大きなウエートを占めており、九州百名山の一つであります白嶽などの山々や浅茅湾の美しい海の景観など、対馬ならではの自然の魅力を味わえる多くの観光スポットがございます。

　対馬の観光誘客を促進していく上で、まずは観光地の整備・充実を図ることは非常に重要なことであり、整備を実施していく箇所やその緊急性等について、優先度や事業規模などを総合的に判断しながら、振興実施計画等に基づき、整備を進めているところであり、あそうベイパークのリニューアル工事のほか、災害による復旧工事等にも取り組んでいるところでございます。

　次に、自然保護の観点でございますが、対馬の豊かな自然は貴重な地域資源であり、市長として未来へつないでいく責任を感じております。

　無責任な整備や開発を行うのではなく、地域資源の価値を再認識し、それらを保全しながら適切に活用していくことで、地域振興との両立を図り、持続可能な地域づくりを目指すという、エ

コツーリズムの理念に基づいた観光振興を進めていく必要がございます。

今後の観光整備につきましては、整備・開発と地域資源の保全という２つのバランスを取りながら推進していくとともに、現在の整備状況の把握や、観光地の表示の点検も進め、なお一層の観光地の魅力化に取り組んでまいる所存でございます。

次に、対馬の資源保護と活用についてでございます。

対馬は、暖流がもたらす豊かな漁場に恵まれ、古くから水産業が基幹産業として発展してきました。

しかし近年、漁獲量の減少や漁業者の高齢化、後継者不足など、様々な要因が複合的に作用し、水産業の不振が深刻化しております。

特に、議員のほうからもお話がありましたように、イカ、ブリ等の不漁、クロマグロのＴＡＣ管理の導入などによる、主要魚種の漁獲量が減少傾向にあり、漁業者の経営を圧迫しております。

また、沿岸域では、藻場の減少や海洋環境の変化により、磯根資源の生育環境が悪化している状況でございます。

漁獲量の減少については、様々な要因が考えられますが、適切な資源管理を行っていれば、その減少を防止・緩和できたと考えられるものが多くあります。

近年の漁獲に係る技術革新により、船舶の隻数、トン数等当たりの漁獲能力が増加し、船舶の隻数、トン数等の制限による管理の手法が限界を迎えつつあり、むしろ漁獲量そのものの制限に転換しなければ、水産資源の持続的な利用の確保が十分になし得ない状況となったことから、漁獲量（ＴＡＣ）による管理を基本とする新たな資源管理制度が創設されております。

水産資源管理を行うには、種類ごとに資源量の水準及び動向を的確に推定することが不可欠であります。

国においては、自然評価や生息環境調査、漁業者からの情報収集、研究機関との連携など、これらの調査結果を基に、科学的な根拠に基づいた資源評価を行い、漁獲量制限や禁漁期間など、適正な資源管理措置を講じています。

次に、沖合底引き網漁業についてでございますが、対馬市水産業にとって重要な漁獲資源であるアカムツについては、平成２２年度以降、資源保護の観点から、重要な海域である厳原町西沿岸海域に約４２平方キロメートルの保護区域を設定しており、対馬市内アカムツ漁業者及び県外の沖合底引き網漁業者と自主的な操業自粛期間を設けることで資源管理に取り組んでいるところでございます。

本海域の操業自粛期間は、産卵期にあたる８月１６日から９月１５日までの１か月間としており、毎年、沖合底引き網漁業者と協議、合意に基づき、継続更新しております。

また、対馬沿岸漁業者が取り組んでいる対馬北東沖のアマダイの資源管理に向けた、毎月第２、

第４金曜日の操業自粛に取り組んでおり、資源保護措置の推進等、双方の適正操業に向けた協議を、地元漁業者の意見を聞きながら、対馬市漁業協同組合長会にて行っているというふうに聞いております。

次に、対馬近海で操業する大臣許可の大中巻き網漁業においては、平成１７年１月に締結された協定の継続と、協定海域以外の５マイル以遠の対馬北部・南部海域における巻き網側との操業についての協議、また継続審議となっております。

代船建造に伴い大型化された船団の調整協議についても、対馬市漁業協同組合長会と、長崎県旋網漁業協同組合で進められております。

対馬の沿岸漁業者にとって非常に重要であることから、関係者間の相互理解の下、慎重に協議すべき問題であると認識しております。

市といたしましても、関係機関と連携調整を図りながら、適宜対応に努めてまいります。

最後に、ジェットフォイルの建造に伴う契約状況についてでございますが、これまで、ジェットフォイルの老朽化に伴い、建造費の支援等、国・県へ要望してきたところであり、今回の更新に伴う建造計画は、県が主体となり、国の補助金の活用と併せ、県・壱岐市と協調して、ジェットフォイル更新に伴う建造費を支援するスキームを構築しております。

現在、事業主体である九州郵船株式会社において、鉄道運輸機構との共有船舶制度を活用した想定で建造計画が進められているところです。

建造費は約７８億６，０００万円で、国・県・市が消費税抜きの５割を補助し、残り５割の約４０億円は事業所負担であるため、鉄道運輸機構との共有船舶制度を活用して資金調達を希望されております。現在、鉄道運輸機構において審査が続いている状況であり、契約の締結までには至っていない状況であります。

県へ進捗について確認しておりますが、県は、国・九州郵船株式会社・鉄道運輸機構と年度内の建造契約締結に向けて協議、調整に取り組んでおり、九州郵船株式会社の経営状況、将来の経営方針や収支見込み等を踏まえて、償還確実性などの観点から慎重な審査が続いていることから、調整に時間を要しているとのことでございます。

ジェットフォイルは高速かつ就航率に優れ、市民の移動手段はもとより、観光事業や交流人口の拡大等にも重要な役割を担っており、必要な存在であることから早期契約、着工を望んでいるところであります。

今後、老朽化により、もう１隻の更新に向けた計画を実現していくためには、建造する事業所負担の軽減を図る必要があり、関係自治体と連携し、海上交通の維持・確保を図るため、有人国境離島法の期限延長と予算規模拡大の要望に合わせ、既存の支援制度の継続及び支援拡大について、国へ要望してまいります。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ありがとうございました。多岐にわたる質問で大変苦労されたと思いますけれども、まず、観光面から３点お尋ねしていきたいと思います。

まず、和多都美神社、神話の里自然公園、それから烏帽子岳。これはこの前、予算審査委員会の中でも部長のほうに聞きましたら、烏帽子岳の開通予定が大体５月の連休前後という話を聞いております。

一番、中地区で重要なポストになってくると思うんですけど、前も質問をしました神話の里自然公園の活用状況方法、これも協働隊員が昨年の７月に辞めたのかな。それで、どうも前に進んでいないという話を聞いています。だから今、募集をかけて、協働隊員をまた探して採用して、そして神話の里自然公園、烏帽子岳、あるいは和多都美神社、こういったところの活用を図っていこうという話を部長から聞いております。

どうも和多都美神社の禰宜さんとの話がうまくいっていない。いくときもあるんでしょうけれども、私も直接話したことあるんですけど、もう少しじっくりと話して、市と話が分かち合えるように取り組んでいかなければ、なかなか和多都美神社を外して神話の里自然公園にポンと行くわけもいかんし、こういったところが一つ、大きなポイントになってくるのかな。

それでもし、協働隊員を募集し、採用したときには、この人とよく相談をし、和多都美神社ともよく相談をしながら、全体的な活用ができる協働隊員をつくり上げてほしい。そうしないと、浅茅湾の観光も中対馬地区の観光も非常に厳しいという思いを私は持っておりますので、ぜひ、この協働隊員採用に向けて、また市長も中に入って、しっかり取り組んでいただきたいなというふうに思っております。

まず、その点を１点、どうでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　議員、おっしゃられたように、協働隊員のほうが昨年７月に何か事情があって退職されたということでございまして、今後、また改めて、この豊玉地区、中対馬地区の観光事業をミッションとした協働隊員を採用する予定としております。

この協働隊員には、特に中対馬の神話の里自然公園、それから他の和多都美神社とかそういったところのいろいろな観光イベントを担っていただこうということでございます。

その前にちょっと、この神話の里自然公園の古民家の件は、私ももう、要は協働隊員を採用とかいろいろ悠長なことは言っちゃおれんといったことで、もう先に民間事業者あたりを公募してくれということで指示はいたしております。

そういうことで、せっかくの立派な施設がございますので、あれを遊ばせておくのはちょっと

もったいないということで、今、厳原町のほうでも古民家、要するに古い旅館等を活用した宿泊施設等も創業されておりますので、ああいった形でできないものかといったことで、公募をかけていくようにということで指示をしているところでございます。

それとまた、冒頭の観光産業の案内板とか、そういったところの指摘もございました。ここについては、また改めて点検をしながら、更新を図っていきたいと思っておりますし、今現在、今度はスマートフォン等でも見れるデジタルマップを構築しておりますので、このデジタルマップを活用すれば、また新たに道案内とか、食事の関係とかまで分かるようになりますので、そういうところを早く進めて、観光産業の活性化に努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ありがとうございます。神話の里自然公園の話は前からしておりますように、市長が今、お答えになられたような公募の仕方、古民家を活かす公募、これを早くやってもらいたい。

だんだん古くなっていきますし、この前も同僚議員が質問しておりましたけれども、やはりあの古民家は対馬にとって非常に重要な遺産だと私は思っています。あれだけの年数がたって、全然朽ち果ててない。だから中を少し改造してやれば、きっといい古民家民泊はできるような施設になるというふうに思っておりますから、ぜひこの中対馬の神話の里自然公園、これをしっかり取り組んでほしいと思います。

前から言っております古いトイレも、何回も言いませんけど、早く解かな、見栄えが悪いんです、あれ。それで、立入禁止の札も立っておるし、もうちょっと早く解いてください。そしてあそこをきれいに整地して、シャワー室でもつくって、ちゃんとあそこが活用できるようにしてほしいなと思います。

神話の里自然公園は一応、市長にお願いをして、それぐらいにしますけれども、言われた観光案内板、これはぜひ観光交流商工部と一緒に回って見てほしいんです。いっぱいあります。「これはどこかな、これはどこに行けばいいのかな」というのがあるから、今、レンタカーが多い、特に韓国人もレンタカーが多い。こういったところがありますから、１回、対馬を全部回ってみて、「これも替えないかん、これは改造せないかん」というのがありますから、ぜひそこを取り組んでください。これもお願いをしておきたいと思います。

それから次は、あそうベイパークの件なんですけど、これも前から話はしております。あそこの、今、もう少しでツツジの花が咲きだします。約３万本ぐらいのツツジをボランティアの人たちに植えていただいて、きれいな公園が出来上がっております。

今年も植栽をされているみたいですけど、大体、島内で５０人、島外も４０人ぐらいボランティアの方がおられるみたいです。特に、島外は福岡、こういった人たちがボランティアでお手伝

いに来たりされているみたいですから、私は1回言って、つくってもらった舗装の道路、ツツジを見ることができる遊歩道ですか。これも、きれいにできていますし、よく見える遊歩道になっております。

もう１つお願いしたいのは、この遊歩道をずっと登っていくと、あそこに東屋があるんです。東屋のところにちょっと広い場所があります。そこに、今の東屋じゃあ、ちょっとちゃち過ぎて、雨風がしのげない。それよりも、もう少し大きくつくって、あそこに１０人か１５人ぐらい座ってツツジが眺められるようなやつが欲しいなという希望も出ております。食事もできるような大きめの東屋をぜひつくっていただきたいなというふうに思っております。

それから、ボランティアの人たちに対する油代の補助、これも大体１００万円ぐらいかな、市のほうで出されているようですけれども、やはりあれだけの人が集まって、しっかり草なぎをしたり、植栽をしたりしていただいておりますので、もうちょっと頑張ってボランティアに対する補助を考えてやってください。

あそうベイパークの件を１点、市長にお尋ねしておきます。

それと今、建物が建っている横に池みたいなところがあります。昔の潮だめかな。海側にあるんです。あそこは水はけが悪くて、６月と７月の大雨になると水があふれ出て、あそこの資材を置いているところに水がたまってしまう。

あのため池を何とかされんもんかな。例えば埋めるとかね。埋めて、大きい水門をつくって水はけをよくするとか、川のほうに水を流すとか、どうにかあそこをしてもらわないと、大雨、台風のときはいっぱいあふれて道路まで水が来ます。そこのところもちょっと考えてみてください。

あそうベイパークの件を１点、そこでちょっとお願いをしてお答えください。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　また、詳細のことについては、担当部長のほうから答えていただきますけども、まず、このあそうベイパークの東屋の整備は、これはまた、きちっと計画を立てた上で整備をしていくべきだというふうに思いますので、改めて現地等を確認しながら、まず、振興計画等でもきちっとしたことでやっていきたいと思っております。

それからまた、ここのボランティアの関係でございますけれども、大体、年間１４０万円程度の補助をして、いろいろと草なぎから、また新植・補植といった形で頑張っていただいているところでございまして、本当に感謝をしているところでございます。

それからまた、３点目の今、管理棟の先の調整池でございますが、恐らくあの調整池は海岸保全施設の関係で埋めずにしているんじゃないかなと。私、以前整備したときのことを思い出して今、話しておりますけれども、そういう関係もあって、恐らく埋立てとかは難しいんじゃないかなと思っております。

　また、ここは詳しく振興局の農業振興普及課関係のほうがたしか担当になろうかと思いますので、調べてみたいというふうに思っております。

　以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ありがとうございます。ここは、神話の里自然公園に次ぐ一大イベントができるあそうベイパークです。もう、今年中には出来上がると思いますけれども、できたらあそこでゲンカイツツジ祭りとか、そういった市民が一堂に会して祭りができるようなイベントを、この３月から４月の間に開いていただければ、またたくさん観光客も来れるし、あそこがまた活性化するんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

　時間がありませんので、次の質問に行きます。

　今度は資源の関係。先ほど、タブレットのほうに発信しておりました。今、出したのが、北松海域の船が取った１９トン以下の底引き網船がとったアカムツです。これは、１匹がたばこの太さぐらいしかないんです。それで、これが１箱３００円から５００円で市場では取引されているみたいです。

　こういったものを対馬から持って帰っているんです。これは、市は分からんと思いますけど、これ県の漁業調整規則であるとか、水産庁の大臣許可であるとか、こういったものを多分持っていると思うんです。

　だからここの中で、こういったものを取っていかれると、それこそ対馬の人たちが取るのはこれです。この太さから見ると全然話になっていない。だから、この小さいやつ、匹数にするとこの対馬で取れる魚の何百倍でしょうか。

　将来、絶対こういったのが自然の枯渇につながっていくと思っていますから、県のほうにもしっかりと話をしてください。

　許可範囲内だったら来るなとは言われませんけど、取ってくれるなと。そしてこういったものを市場に出すなと、ぜひ市のほうからも話を投げかけてください。そうしないと、この高級魚、アカムツがですね、これだけ取られると減ってしまいます。これ、まだ何枚も写真がありますけど、日付も載っていますから、こういったことをされると大変です。

　それで大型、中型、７０トン、１５０トン型の底引き網船にしても、これに加えてアナゴも巻いてるんですからね、アナゴ。今、アナゴも不漁です。アカムツも不漁です。だからイカも不漁、ヨコワも駄目。対馬の漁業者はだんだん生活ができなくなっていきます。ヨコワの枠も、もう終わりました。だからこれ、オープンであれば、何とかそれでも飯は食えるんでしょうけども、もう２月いっぱいで終わっていますので、これも駄目。

だからそういったところも、やはり水産業が振興できるように、漁業者が生活をしていけるように、市のほうもしっかり取り組んでもらわなければならないというふうに私は思っております。

この件について、市長のお考えがあればどうぞ。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　この漁業資源の関係につきましては、市のほうがいろいろと行われる権限等はまずありませんので、県と相談をした上で水産庁等に要望をしていくということで進めていきたいなというふうに思います。

確かに今、この写真を見させていただきますと、私も最初、意味が分からなくて、何か、ただ小さいアカムツみたいな写真が入っているなとは思っておりましたけれども、こんなアカムツを市場に出されると、本当に、せっかく１か月間の制限期間を設けたりして資源保護に取り組んでいる対馬の漁業者を無碍にするみたいなことでございますので、こういうことが本当にあってはいかんなというふうに思っております。

また、この許可等について詳しい答弁が必要であれば、担当部長のほうに答えさせます。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　詳しい答弁になると難しくなるんです、この許可事業は。だから、市でできる問題じゃないんです、これは。ただ、漁業者を守るために市がどうするかということだけで、許可事業の中身を突き詰めたら大変、させんぞということになりますので、それはもういいです。だから、水産庁、県、こういったところに漁業者の生活が成り立っていくようにしてくれんかという要望ぐらいで止めとかんと、この許可範囲を広げたら大変になりますから。これ巻き網も必要です。だから、それはもうそれで止めておきたいと思いますけれども、これはさっきから話しておりますように観光と漁業の島ですから、ここは。だから、観光にもしっかり力を入れてもらいながら、水産振興にぜひ力を入れてほしいなというふうに思っております。

それから、資源の件でもう一点、市長にお願いをしておきたいんですが、今、ゲームソフト、ゴースト・オブ・ツシマとかアンゴルモアとかいっぱいやっていますね。こういったのが題材になっているのが蒙古と対馬で、こういった人たちが対馬にどんどんどういったところかなというふうに見に来ているんです。アメリカも多いし、原作はアメリカ人ですから。こういったところをやっぱり有効活用されて、小茂田浜神社を中心として、武者行列も私は見てもすばらしいなと思いましたので、あれも復活をさせてもらって、毎年、小茂田浜神社の祭りにはそういったことも続けてやってほしいなと、これ副市長にもお願いしておきましょうか、地元やけ。ぜひ、これは見る価値があると思いますから、これも進めてください。

それから、今言いましたゲームソフトの件でも、市がもっと取り込めるようなことを模索してみてください。６００万、７００万本が売れてるソフトですから、もっともっと対馬に来たいな

という人がたくさんおると思いますので、こういったところも市が窓口になって進められたらどうかなというふうに思っております。

今日は、これから先の対馬の観光と資源の保護という点で質問をさせていただきました。私も３０年間、対馬市議会議員としてやってこらせていただきましたけれども、大した力にはならなかったと思いますけども、また何かありましたら有効活用してください、ひとつお願いをしておきたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　作元義文君の質問が終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開を１１時５分からといたします。

午前10時49分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。５番、坂本充弘君。

○議員（５番　坂本　充弘君）　おはようございます。５番議員、新政会の坂本充弘でございます。今定例会においての一般質問が３日から始まり、最終日となりました。あとは、私と午後からアンカーの波田議員でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

２月２６日に岩手県大船渡市で発生した山林火災は延焼が続き、今日、発生から７日となり、消失面積はおよそ２，９００ヘクタールに拡大しているということであります。市の面積の８％以上に上っていて、地上と上空から２，０００人規模による消火活動が続いているということであります。市内の避難所には１２か所に約１，２００人が避難し、避難所以外の場所にも約２，８００人が身を寄せているそうです。

一方、市によりますと避難指示が出ている住民のうち、避難している人などから市への連絡がないため所在を把握できていない人は少なくとも５７０人ほどいるということであります。

総務省消防庁の要請を受け、１４都道府県の消防から緊急援助隊として５４２隊、２，０１６人が派遣され、自衛隊や警察のヘリも出動し、上空からの放水や火災状況の確認を行っているということであります。一刻も早い火災の鎮圧となるよう祈るばかりでございます。

それでは、通告に従い、質問に入らせていただきます。

１件目は、漁業振興対策について、２件目は、国県道のトンネル内ラジオ放送について、３件目は、イベント等における障害者専用の駐車場確保についてでございます。

以上の３件についてお尋ねをいたします。

１件目の漁業振興対策についてでございますが、これは昨日質問された船越議員と先ほどの作